

第3回赤城山覚満淵自然観察会



主催：赤城山の自然保護活動推進協議会

協力：NPO法人 あかぎくらぶ/ サンデンフォレスト、NPO法人 赤城げんき会議、NPO法人 赤城自然塾、
NPO法人 群馬県自然保護連盟、NPO法人 ぐんま緑のインタープリター協会、NPO法人 フォレストぐ
んま21、赤城姫を愛する集まり、ぐんま森林インストラクター会、(財)サンデン環境みらい財団、
赤城山観光連盟、赤城南麓森林組合、国立赤城青少年交流の家、前橋市赤城少年自然の家

後援：群馬県、前橋市

場所：赤城山覚満淵等

日時：平成27年7月20日（日） 8：30～11：45

天候：曇り時々晴れ、28℃、微風、観察中濃霧発生

参加者：124名（別紙参加者リスト参照）

時系列別報告書

8：15 白川分校駐車場開場

8：30 役員ビジターセンター集合、班別指導打ち合わせ、ハンディーマイク3、救急セット1

8：30 受付準備（受付用参加者名簿、当日参加者名簿）、配布資料（班別名簿、時系列別スケジュール表、一般参加者向け植物リスト）

班別集合場所決定（1班～8班）

8：45 受付開始 2名配置

9：20 班別に集合整列



受付開始 2名配置



班別に集合整列



9:30 オープニングセレモニー開始 司会挨拶

主催者挨拶：小暮 市郎（赤城山の自然保護活動推進協議会長）

後援者挨拶：松下 克（群馬県自然環境課長）、中島 實（前橋市環境部長）



小暮 市郎



松下 克氏



中島 實氏

指導者紹介：1班（坂庭、加藤）2班（春山、棚橋）3班（小暮、酒井）

4班（片山、梶原）5班（田中、泉川）6班（亀井、桜井）7班（篠原、六本木）8班（吉田、市川）

自然観察実施上の注意等：坂庭 浩之（群馬県林業試験場）

9:50 指導者の指示により移動

9:55 指導者の指示により自然観察開始 班別の打ち合わせ後スタート



事前打ち合わせ風景 7班



ミズナラ林手前防鹿ネット入り口



M家 家族一緒の参加



鳥居峠手前 4班の解説



ウラジロモミ防鹿ネット解説2班



そばのクルマユリに感動



3 班の解説



キバナノヤマオダマキ



ヤマオダマキ



8 班の解説



1 班 ウラジロモミの解説



5 班 の解説



覚満淵のヌマガヤ



ニッコウキスゲ



カラマツソウ



ノハナショウブ



クルマユリ



湖面を遊ぶカルガモの親子

11:30 自然観察終了

11:35 クロージングセレモニー

集合写真撮影

主催者御礼挨拶：小暮 市郎（赤城山の自然保護活動推進協議会長）

11:45 終了、解散

*希望者対象： 12:40～14:50 有志の指導により、小沼、長七郎山 自然観察を実施
参加者 22 名

希望者及び指導者有志による「小沼、長七郎山 自然観察」



集合写真 小沼駐車場



ウスユキソウ



夏雲の広がる小沼



ナツツバキ

14:55 無事終了 解散

指導者コメント

1班 坂庭 浩之

今年は、天気も良く安心して観察会が行えました。

AKGのみなさんも、ファンの皆さんも撮影会をしながら観察を楽しんでいただけたようです。

解説にマイクとスピーカーをお借りしたので、皆さんとの意思疎通もよくでき、自然への興味を広げていただけたようです。

12種類の花を乗せた解説チラシが用意されていたので、皆さんも大変良く理解できたようです。

普段、植物に触れることのない方々を対象にした観察会でしたので、いろいろな話題を混ぜながら進行してみました。

面白いことがありました。解説の中で「クルマユリ」と伝えたつもりが、「車エビ」と聞こえたようで、ちょっとしたきっかけで若い皆さんには花の名前を覚えてもらうことができました。

来年も会えることを約束し、観察会+撮影会を無事に終えました。

2班 春山明子

2班は19名という大人数のガイドとなりましたが、マイクを使用したので例年よりもスムーズに実施することができました。また、人数が多いと、列の後半の方に同じ植物や風景を一緒に見てもらうことは難しいのですが、サポートの棚橋さんが後方のガイドをしてくださっていましたので、安心してガイドをすることができました。今回は昨年までの反省を活かし、難しい話を少なくして、若い方の共感を

得られるような、楽しいツアーを目指しました。そのため、言葉足らずの説明もあったと反省していますが、鳥居峠での集合写真や、咲き始めたばかりのクルマユリの撮影会、木道脇で咲く宣伝部長のニッコウキスゲの説明など、随所で参加者の楽しい笑い声を聞くことができ、ガイドをする私も楽しむことができました。

3班 小暮 市郎

当日参加の1家族6名が加わって17名で出発でした。予定ポイント以外の歩きながらの観察は、春山資料を有効に使い、参加者同士が互いに教え合うことが中心でした。各ポイントでは資料を軸にしましたが、資料にない内容では、折角咲いていたノハナショウブの花の各部配列の法則性があることを観てもらおうことを選びました。

花の各部分は外側から外花被(萼)+内花被(花冠)+雄しべ+雌しべ柱頭の順に、3枚+3枚+3本+3裂、整然と配列するのがアヤメ科の特徴であること、アヤメ科の種類アヤメ、ハナショウブ、キショウブ、カキツバタ、シャガ等の共通点を知って、ユリ科との違いに気がつくことも期待したのでした。言い換えれば、種名を知っただけで満足しないで欲しかったのです。理解してもらうためには、大きな紙に図示すべきだったと反省しました。次の機会があれば、大きな花式図を準備して参加します。

4班 片山 満秋

あらかじめ作成された参加者名簿に、出発間際になって変更があった。しかし最終的には10名以内であったため、時間的にも余裕をもって行動することができた。鳥居峠では霧がかかってしまい、ここから望める大沼や外輪山などが見られず残念であった。

4班に指定されたコースは「鳥居峠→ウラジロモミ→ヌマガヤ群落→試験区3,4」で折り返し「ヌマガヤ群落→試験区1→ミズナラ林」というルートであったが、「ウラジロモミ」が混雑していたので、「ウラジロモミ→試験区1→ヌマガヤ群落→試験区3,4→ミズナラ林」と変更し、折り返さずに歩いた。そのために時間的な余裕が出て、昭和天皇の御製歌碑もゆっくり見ることができた。4班はこのようにルートを変更すると時間的にも余裕が出ると思われる。この変更で他の班に差し支えることがなければ、次回の4班の観察コースはこのようにしたらどうか。

今年は、開花期が異なっていたようで、開花している種類や数も少なかった。ニッコウキスゲの蕾数は例年より少なく感じた。また、今年の春～初夏の日照不足からか、レンゲツツジの蕾はほとんど形成されていないようなので、来年の開花数はかなり少ないと思われる。全体的にシダ類やススキなどの繁茂が著しかったので、これらの勢いを削ぐ手だてが必要と思われた。また、今年はシカの新しい食害の痕跡はほとんど見られなかった。

カラー写真は非常に有効であった。参加者は指導者の説明を聞き、この図と見比べて“安心”しながら観察をしていた。

5班 田中 洋助

5班参加者は子供2人づつの若い夫婦2組と年配経験者1名計9人で、年齢は3歳から75歳という幅広い構成。歩き始めてすぐにテニスコートわきの斜面にニッコウキスゲがきれいに咲きそろった一群が目に入り、こんな風にきれいな花が咲く草原が見られるようにしたいのが保全活動の目的の一つであることを理解してもらおう。続いて白いイケマの花の先には、幸運にもヨツバヒヨドリにアサギマダラが舞って、自然の美しい一瞬をじっくり味わうことができた。覚満淵では群馬テレビの取材に協力しながら、湿原の歴史や植生の遷移の状況を確認したり、ニッコウキスゲ、クルマユリ、ノハナショウブなど

の花々や防鹿柵と笹刈り活動の経緯の説明を行った後、親子がインタビューに応じて小1の男の子が「きれいな花をいっぱい見られました。この花を守る活動はとても大切で続けていってほしいと思います」とはきはきと答える姿に感心させられると同時にうれしく感じた。鳥居峠では残念ながら霧がかかって大沼や覚満淵の眺望が出来なかったのは残念だった。小さい子供もいたので予定コースをめぐることにはこだわらずに、道路沿いの草花やヤマブドウの実やノリウツギ、シモツケ、コアジサイ、カエデ類、ダケカンバとシラカンバの見分け方などをゆっくりと観察し、オシダが群生する窪地ではシダの胞子の説明を興味深く聞いてもらった。コースを省略したので少し早めに出発点に戻ったが、参加者からは多くの美しい花を見られ、興味深い楽しい自然観察ができたことと感謝の言葉をいただいた。

午後の小沼観察会では、先輩ベテラン講師のユーモアたっぷりの楽しい解説に大笑いしながら、含蓄のある適切な説明に学ぶところも多く大変有意義な時間を過ごさせていただいた。思いつきのような急遽の企画であったが成功したと思う。

今回の観察会では、実施時期も良く多くの花々が見られたが、ニッコウキスゲなど花の数が少なかったことや、オニゼンマイが繁茂してヤマドリゼンマイがあまり見られなくなったことを強く感じた。

6班 亀井健一

○天候に恵まれたこと、対象者が12名と適切であったこと、大人だけであったことなどで、快適な観察会になったと思う。

○サブリーダーの桜井さんがポイントごとの時間など細々と目を配ってくれたことも幸いであった。

○最初に、今日の観察会の目的は、ササ刈りの成果を見てもらうことと、覚満淵の自然を楽しんでもらうことの2点であると話してから、観察を開始した。

○鳥居峠では霧が出てしまい、微かに覚満淵が見えるだけであった。見えない地形を想像してみようなどと言って山頂部の生い立ちを説明したが、地形が見えないから歯がゆい思いであった。鳥居峠が霧の出やすい場所であることを説明しておいた。

○ニッコウキスゲに注目すると、昨年より花が少ないと思った。なぜ少ないのか考えてほしいと話したが、このことの正解にはならないが、隔年開花の可能性があると話しておいた。

クガイソウ、ノハナショウブ、オトギリソウ、カラマツソウなどは、花が多くなったと感じてもらえたかもしれない。

○ササ刈りの時期の問題、ササを刈ったことでゼンマイ、ワラビ、ススキなどが、返って元気が出てきたことなどについて考えてもらった。興味深く感じてもらえたと思う。

○すぐに説明しないで、こちらから質問し、参加者の意見を待ってから説明するように心がけた。しかし、時間もかかるので、この手法がよかったかわからない。

7班 篠原 豊

真夏の強い日差しの下、花を求めての敬策でした。

14日の下見の時より花は多かったのですが、昨年と比べると少ないと思いました。

それでもナツノタムラソウ、黄色と紫色のヤマオダマキ、ノハナショウブ、ミヤマカラマツ、クルマユリなどの花を見ることができました。

しかし参加者全員がワラビやオニゼンマイ、ヤマドリゼンマイなどのシダ類やススキが勢い良く繁茂しているのを目にして驚いていたのが印象深かったです。

8班 吉田 龍司

8班のコースは指導者の老齢を心配してか、鳥居峠のポイントが割愛されている。覚満淵の自然を知るためには、鳥居峠は欠かすことの出来ぬ場所なので参加者に断りを入れて車道を歩く。赤城山富士見分校跡を過ぎた辺りはカエデが多く、モミジ(カエデ)は、どの種でも枝のつくりは対生で、葉が落ちた後も枝ぶりを見れば科の判別が可能。漢字表記は現代では「紅葉」と書くが、平安時代は「黄葉」と書いて「モミチ」と濁らずに発音したと解説。トネアザミの群落が出現。薊の語源は「欺く」。綺麗だと近寄ると棘に触れて欺かれる。…驚き呆れる様から来ていると話す。他にヤマオダマキと静御前の寓話、ノリウツギは和紙漉き時に接着剤として利用。北海道ではサビタという素敵な名で人気。ニワトコが赤い実を着けているのを見る。樹皮は酢で溶いて打身の湿布薬として骨接ぎでは終戦後まで使用した。それゆえ接骨木と書く。霧が濃く鳥居峠は朧。他の班も各々解説中で混雑。ケーブルカーの運行の話。首都圏から利平茶屋を経て観光客が沢山訪れた。それ以前は赤城山参拝のため近郷から徒歩で来た人たちは覚満淵を俯瞰して「極楽浄土」を想起したという話を披露。ダケカンバが茂り視界が妨げられている。五輪峠の山脈から籠山、小地藏岳等の外輪山を披露。小地藏岳は信仰の山。虚空蔵菩薩が祀られていて里人は菩薩の使いであるのでウナギは食せない話。峠を下りウラジロモミを見る。防鹿ネットが巻いてあるのは冬季厳つい樹皮もニホンジカは餌不足で樹皮を食害するその名残。先駆植物のダケカンバ林は陽樹。この付近は大洞地区の尿尿捨て場跡地で豊栄養な場所。付近は湿潤を好むズミとマユミ。湿原にはヌマガヤの群落が涼しそう。試験区1はゼンテイカ(ニッコウキスゲ)が開花。数は少ないが鮮やか。学名ヘメロカリスは一日花の意。しかし実際は1日半咲く。花被(内花被、外花被)雄蕊は3の倍数。レンゲツツジ(群馬県の花)は花芽が少なく来年は不作か? オニゼンマイ、ヤマドリゼンマイの違い。湿原の乾燥化が進んでいる。木道脇にノハナショウブがチラホラ。園芸種のハナショウブの原種でアヤメ、カキツバタとの見分け方と適地の話。「ミズナラ林」ここは70年前は草原だった。植物遷移と極相林の話をして時間内で終了した。

事務局 小林 善紀

今年も無事終了出来たことに対し、指導者の皆様を始め多くの方々にご協力を頂いた賜物と心より感謝申し上げます。参加者数は124名(受付簿99名-当日欠席9名+当日参加34名=124名)でした。

当日参加者が当日欠席者を25名オーバーしたことは時期と天候だったでしょうか?(企画の浸透とも思いたい) 指導者のコメントに「ニッコウキスゲの蕾数は例年より少なく感じた。また、今年の春~初夏の日照不足からか」、「実施時期も良く多くの花々が見られたが、ニッコウキスゲなど花の数が少なかった」「参加者全員がワラビやオニゼンマイ、ヤマドリゼンマイなどのシダ類やススキが勢い良く繁茂しているのを目にして驚いていたのが印象深かったです。」があったことは大いに留意し、改めて対策を検討すべきと思います。

毎年7月20日(海の日)を自然観察会と決めております、来年に向けてスタートしましょう。

マスコミ対応

- 当日、群馬テレビアナウンサー小野さん、カメラマン斉藤さんの取材を受け、7月20日18:00のニュース番組で放映された。
- 7月27日(月)群馬テレビジャストシックスに事務局小林が出演し、今回の自然観察会をテーマにしてコメントした。